

# 公立大学法人金沢美術工芸大学

## 第2期中期目標期間

### 業務実績評価書（案）

（平成28年度～令和3年度）

令和4年 月

金沢市公立大学法人評価委員会

## 目次

I	評価方法.....	1～2
1	評価の構成.....	1～2
2	項目別評価.....	1～2
	ア 法人による自己評価	
	イ 評価委員会による評価	
3	全体評価.....	2
II	評価結果.....	3
1	全体評価.....	3
2	項目別評価.....	4～9
	① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）	
	② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）	
	③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）	
	④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標	
	⑤ 財務内容の改善に関する目標	
	⑥ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	
	⑦ その他業務運営に関する重要目標	

# I 評価方法

## 1 評価の構成

「項目別評価」及び「全体評価」による。

## 2 項目別評価

### ア 法人による自己評価

法人が作成した中期計画の最小単位の項目（以下「小項目」という。）ごとに、法人自らが、以下の4段階の評価区分により、その達成状況を判断理由を付して評価する。

※ 中期計画の大項目第6から第10に関しては業務実績のみのため記載省略

#### 【評価基準】

評価区分	評価内容
Ⅳ	中期計画を上回って実施している
Ⅲ	中期計画を十分に実施している
Ⅱ	中期計画を十分には実施していない
Ⅰ	中期計画を実施していない

### イ 評価委員会による評価

(7) 評価委員会は、法人が行った自己評価の結果について妥当性を確認し、法人と評価の結果が異なる場合は、評価が異なる理由を示すものとする。

(イ) 評価委員会は、(7)の評価結果を踏まえ、法人の業務実績を総合的に検証し、中期目標の次の大項目（大学の教育研究等の質の向上に関する目標については、中項目）ごとに、以下の5段階の区分により達成状況を評価するとともに、特筆すべき点や改善が望まれる点についてコメントを付す。

中期計画	大項目（中項目）
第1	① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （教育に関する目標）
	② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （研究に関する目標）
	③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （その他の目標）
第2	④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標
第3	⑤ 財務内容の改善に関する目標
第4	⑥ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
第5	⑦ その他業務運営に関する重要目標

※（ ）内は中項目

### 【評価基準】

評価区分	評価内容
S	中期目標の達成状況が非常に優れている
	※ 評価委員会が特に認める場合
A	中期目標の達成状況が良好である
	※ 評価委員会の小項目別評価が全てⅣまたはⅢ(注)
B	中期目標の達成状況が概ね良好である
	※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割以上(注)
C	中期目標の達成状況が不十分である
	※ 評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が9割未満(注)
D	中期目標の達成のためには重大な改善事項がある
	※ 評価委員会が特に認める場合

(注) 評価区分は目安であり、社会情勢等の変化による進捗の遅れや、小項目の比重を考慮して評価委員会で判断

### 3 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期目標期間の業務実績全体について記述式により総合的に評価する。なお、評価を通じて得られた大学運営に関する課題や改善事項等についても、併せて記載するものとする。

また、評価制度が大学運営の検証という役割に加えて、大学の活動状況を市民に公表する役割も担っていることから、大学の特色ある取り組みや工夫等については、積極的に評価するものとする。

## II 評価結果

### 1 全体評価

中期計画に定めた全ての項目が着実に実施され、項目別評価においても全項目がA評価（中期目標の達成状況が良好である）であり、第2期中期目標期間（平成28年度～令和3年度）に係る業務実績に関しては、全体として「中期目標の達成状況が良好である」と評価する。

第1期中期目標期間（平成22年度～平成27年度）に引き続き、第2期中期目標期間においても、業務内容を充実させるために積極的に取り組む姿勢が随所に見受けられた。

特筆すべきは、新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な活動が制限される中において、学内での協議や学生との対話を重ね、学生の視点に立った柔軟な対応を取ってきたことである。

具体的には、アルバイト収入の減少や家計の急変等が生じ、学業及び芸術活動の継続が困難となった学生を支援するため、授業料減免対象者の範囲の拡大、全学生に対する支援金の支給及び「短期貸付金制度」による一時貸付の実施など、大学独自の様々な制度を新たに創設し、効果的な学生支援を行った。

また、徹底した感染防止対策が求められる状況下にあっても、オンライン授業の利点を最大限活用することで教育研究の質を確保しており、学生に不利益が生じないような数々の工夫が見られた。

このほか、以下に大学の特色ある取り組みや工夫等として評価できるものを挙げる。

- ・ 教養科目において、コミュニケーション能力をはじめとする汎用的能力や自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解する能力を培うため、「金沢の文化行政」をはじめとした様々な科目を新たに開設するとともに、実務経験の豊富な教員や講師を配置することにより、教育内容の改善に努めてきたこと。また、基礎科目においては、専門以外の実技を経験する集中履修期間を堅持するとともに、現代美術演習など新たな領域の科目を開設して選択の幅を広げることにより、多様な表現力を養う教育を実践してきたこと。
- ・ 金沢市と協働で実施してきた「平成の百工比照収集作成事業」について、継続的に収集・作成した資料約7,000点を美術工芸研究所ギャラリーで常設展示し、その研究成果を広く一般に公開したこと。また、無形文化財としての工芸技術の保存と継承のため、「4K動画による工芸技術記録」を作成したほか、公立大学としては全国初となる国立民族学博物館との連携協定に基づき、資料全体のデータベース化や映像制作を行い、高等教育教材としての実用化に取り組んだこと。

## 2 項目別評価

### ① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

<b>評価</b>	<b>A</b> （中期目標の達成状況が良好である）
-----------	----------------------------

中期計画記載の 23 の項目のうち、Ⅳ評価（中期計画を上回って実施している）が 6 項目、Ⅲ評価（中期計画を十分に実施している）が 17 項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

#### ○ 特筆すべき点

- ・ 学位授与方針、教育課程の編成方針及び学生受入方針の連関性について不断に検証する体制を構築したこと。具体的には、学長のガバナンスの下で、教育研究審議会を中心とする全学的なマネジメント体制により、学部の教育目標及び各科・専攻の教育方針に基づき、適切に PDCA サイクルを機能させ、これに相応しい教育を実践したこと。
- ・ 広範な産学連携事業や地域連携事業に積極的に取り組み、多くの学生の参画を促すことにより、実社会の課題を通じた実践的な能力を身に付けるための特色ある教育を実施したこと。
- ・ 学生の課外活動に対して教員が指導や助言を行ったほか、当大学独自の「学生展等開催交付金」、「公募展出品等事業補助金」及び「ワールドワイド奨学金」を支給して、作品発表や海外での活動を支援したこと。加えて、「金沢 21 世紀美術館キャンパスメンバーズ」や「国立美術館キャンパスメンバーズ」に新たに加入することにより、学生や教職員が気軽に展示品を鑑賞できる環境を整備し、自主的な学びを支援したこと。
- ・ これまで大学独自の「授業料等減免制度」により修学支援を行ってきた大学院生が、令和 2 年度より開始した国の修学支援新制度では対象外とされたが、新たに国に準じた制度を大学独自に整備し、支援の対象範囲を拡充して修学支援を継続したこと。また、大学独自の学生顕彰制度として「KANABI クリエイティブ賞」や「けやき賞」を授与したほか、学生の英語能力向上を図るため、英語能力試験の受験費を補助するとともに成績優秀者に奨励金を交付する制度を創設するなど、学生の活動を啓発するとともに、人材の育成に寄与したこと。

## ② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

評価	A（中期目標の達成状況が良好である）
----	--------------------

中期計画記載の7の項目のうち、Ⅳ評価が3項目、Ⅲ評価が4項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

### ○ 特筆すべき点

- ・ 当大学の特色を活かした国際的水準の研究として、「平成の百工比照収集作成事業」を継続して実施していること。特に令和元年度には韓国・清州市で開催された「清州国際工芸ビエンナーレ」に参加し、初めて海外での展示を行ったほか、金沢市で開催された「ユネスコ創造都市ネットワーク分野別会議 2019」においても、大学の研究成果を公開するなど、従来の活動をさらに充実させ、国際的な重要度の高い貴重な機会を得たこと。また、海外へ向けたさらなる発信のため、令和2年度より工芸技術記録映像のキャプションや解説の英訳に取り組み、令和3年度には英語版の記録映像を完成させたこと。
- ・ 従来行ってきた「金沢美術工芸大学紀要」の冊子としての刊行に加え、大学ホームページ内に研究成果物の保存と発信を目的とする「機関リポジトリ」を新たに設け、研究成果の可視性の向上を図ったこと。また、美術工芸研究所ギャラリーを新たに開設し、芸術研究のために収集してきた所蔵品の展示を行ったほか、「教員研究発表展」や「柳宗理デザイン展」の開催などを通して、大学が取り組んできた研究の成果を積極的に公開していること。

### ③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

評価	A（中期目標の達成状況が良好である）
----	--------------------

中期計画記載の8項目のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価が6項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

#### ○ 特筆すべき点

- ・ 金沢市をはじめとした自治体との連携により、当該自治体の政策形成に寄与し、地域に根差した公立大学としての存在意義を多方面に発信したこと。具体的には、金沢市との連携により、「平成の百工比照収集作成事業」、金沢マラソンの「完走者メダルデザイン」及び金沢市立病院の「ホスピタリティー・アート・プロジェクト」など多くの地域連携事業を受託したほか、珠洲市との連携協定に基づき、奥能登国際芸術祭に専攻を越えた学生と教員の合同アートプロジェクトチーム「スズプロ」が参加し、大きな成果を挙げるなど、教育研究成果の社会への還元に努めたこと。
- ・ 研究生制度を活用して大学院における外国人留学生の拡大を図るとともに、新たに日本滞在中の外国人留学生を対象とした「KANABI 工芸セミナー」を開講し、当大学の魅力を発信したこと。また、留学生が一層日本語の語学力を養える環境を整備するため、日本語講座を正課外に開設するための準備を行うなど、支援体制の強化を図ったこと。



#### ④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価	A（中期目標の達成状況が良好である）
----	--------------------

中期計画記載の8項目のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価が6項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

##### ○ 特筆すべき点

- ・ 大学院専任教授の制度を改め、新キャンパスへの移転を見据えた大学院教育の強化の一環として、非常勤講師予算を学長裁量で透明且つ効率的に再配分することにより、幅広い分野で活躍している客員教授を招聘し、充実した教育環境を整えたこと。
- ・ 新型コロナウイルス感染症への対策として、KANABI-Portal の開設、オンライン授業の構築及びオンライン支援チームの確保等、学長のリーダーシップにより、柔軟で機動的な組織運営を行ったこと。
- ・ 大学院改革の方向性を踏まえ、継続的に検討を重ねてきた教育研究組織の再編及び学生定員の見直し等について、令和5年度の新キャンパス移転を機に行うことを決定するとともに、こうした改革に併せ、学位授与方針、教育課程の編成方針及び学生受入方針の連関性を検証し、改定案を作成したこと。

## ⑤ 財務内容の改善に関する目標

評価	A (中期目標の達成状況が良好である)
----	---------------------

中期計画記載の 10 項目のうち、Ⅳ評価が 1 項目、Ⅲ評価が 9 項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

### ○ 特筆すべき点

- ・ 企業や地方公共団体等からの社会連携の依頼に基づき、教育的な効果を検証しつつ、積極的に外部資金の獲得に努めた結果、当初予算計上額を毎年度大幅に上回る受託研究収入を得てきたこと。また、新技術を踏まえた未来志向の依頼等に対し、機能性を重視した新しいデザインの提言を行うなど、当大学の特色を活かした研究に取り組んだこと。

## ⑥ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

評価	A (中期目標の達成状況が良好である)
----	---------------------

中期計画記載の 4 項目のうち、Ⅳ評価が 2 項目、Ⅲ評価が 2 項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

### ○ 特筆すべき点

- ・ 全学的な自己点検・評価の体制を構築し、学生の視点も柔軟に取り入れたうえで、成績評価等において自主的な改善を行ったこと。また、一般財団法人大学教育質保証・評価センターによる大学機関別認証評価を受審し、学長を中心に自己点検・評価実施運営会議が作成した「点検ポートフォリオ」の提出や実地調査等を経て、同センターの定めた大学評価基準に適合していると認定されたこと。
- ・ 多様な媒体を活用し、大学の公式情報と日常の活動を分けて発信するなど、積極的かつ効果的な広報活動を実施したこと。また、新キャンパス移転プロモーション事業の一環として、著名な当大学出身者と連携した各種事業を展開し、当大学への関心度を高めるとともに、新キャンパス移転に向けた機運の醸成を図ったこと。

## ⑦ その他業務運営に関する重要目標

評価	A（中期目標の達成状況が良好である）
----	--------------------

中期計画記載の8項目のうち、Ⅳ評価が1項目、Ⅲ評価が7項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標の達成状況が良好である。

### ○ 特筆すべき点

- ・ 「開かれた美の探求と創造のコミュニティ」という新キャンパス基本コンセプトの実現に向け、金沢市や設計業者との協議を重ね、大学の意向を施設計画に反映させたこと。特に、専攻の垣根を越えた「共通工房」は美術系大学として他に類を見ないほど大規模なものになったほか、大学の活動を広く発信する場としての「アートプロムナード」、共通工房に囲われた空間としての「創作の庭」及び展示や合評を行うスペースである「アートコモンズ」など、新たな芸術創造拠点の形成に向け、移転準備を着実に進めたこと。